

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第3区分

【発行日】平成30年3月15日(2018.3.15)

【公開番号】特開2016-169902(P2016-169902A)

【公開日】平成28年9月23日(2016.9.23)

【年通号数】公開・登録公報2016-056

【出願番号】特願2015-49988(P2015-49988)

【国際特許分類】

F 25B 1/00 (2006.01)

F 25B 39/04 (2006.01)

【F I】

F 25B 1/00 3 8 1 G

F 25B 39/04 N

【手続補正書】

【提出日】平成30年2月5日(2018.2.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

冷凍機の熱交換器の風上に設置された散水マットに給水弁を介して水を滴下することで、前記散水マットを通過する空気から水の蒸発に伴い気化熱を奪い、凝縮負荷を低減する散水装置において、

外気湿度 $H_o$ を検知する外気湿度センサと、

外気温度 $T_o$ を検知する外気温度センサと、

前記熱交換器の風上に設置され、前記散水マットを通過する空気の空気温度 $T_d$ を検知する空気温度センサと、を備え、

前記外気温度センサで検知する外気温度 $T_o$ と前記空気温度センサで検知する空気温度 $T_d$ との温度差 $T_{diff}$ 、および、前記外気湿度センサで検知する外気湿度 $H_o$ に基づいて、前記給水弁を開閉する制御部を備えたことを特徴とする散水装置。

【請求項2】

前記制御部は、前記外気温度 $T_o$ と前記外気湿度 $H_o$ に基づいて最大温度差 $T_{max}$ を算出し、前記温度差 $T_{diff}$ が前記最大温度差 $T_{max}$ に近づくにつれて散水量を減少させることを特徴とする請求項1記載の散水装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は、冷凍機の熱交換器の風上に設置された散水マットに給水弁を介して水を滴下することで、前記散水マットを通過する空気から水の蒸発に伴い気化熱を奪い、凝縮負荷を低減する散水装置において、外気湿度 $H_o$ を検知する外気湿度センサと、外気温度 $T_o$ を検知する外気温度センサと、前記熱交換器の風上に設置され、前記散水マットを通過する空気の空気温度 $T_d$ を検知する空気温度センサと、を備え、前記外気温度センサで検知する外気温度 $T_o$ と前記空気温度センサで検知する空気温度 $T_d$ との温度差 $T_{diff}$ 、

および、前記外気湿度センサで検知する外気湿度  $H_o$  に基づいて、前記給水弁を開閉する制御部を備えたことを特徴とする。

また、本発明は、前記制御部は、前記外気温度  $T_o$  と前記外気湿度  $H_o$  に基づいて最大温度差  $T_{max}$  を算出し、前記温度差  $T_{diff}$  が前記最大温度差  $T_{max}$  に近づくにつれて散水量を減少させてもよい。